

令和 5 年度 園評価書

園番号 50 園名 静岡市立原こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
『自分が好き みんなが好き』	やってみようが いっぱい	子どもがじつくりと遊べるような場と時間が十分にある	・遊びの拠点を作り、子ども達が拠点に行けば遊びたい物があり昨日の続きや今日の遊びを楽しめるような環境作りをしている ・子どもの興味や発達に合わせた遊びの場やコーナー作り、玩具や素材の配置をしている	B	A	・子どもの育ちを支え、環境を整えていることがよくわかった ・園庭には、パレットやコンテナを組み立てた遊び基地のようなものがあり、子ども達が喜んで遊んでいたのが子ども達がどんなことを楽しめるのかをよく考えていると思った ・子どもの行動や思いを肯定的に捉えて関わることは本当に大切なことだと思ふ。褒められると嬉しい意欲にもなるのでこれからも是非大切におこなっていきましょう	・登園後、園庭に出る時間を早めにし十分遊べる時間をつくっていく ・子どもの発達、興味を捉えて見通しをもった保育計画を立て準備をしたり、他クラスと内容の共有、調整をしたりして遊びを充実させていく ・保育者自身が使った後の片付けを丁寧に行い、大切に扱うようにしていく ・体育用具や楽器、教材の特性や使い方を理解し、試してから子どもに使わせていく ・子どもと同じ目線で遊びに入り、子どもの思いやつぶやき、行動の意味を知り、関わり方や環境の再構成をしていく
		季節を感じながら園内や地域の自然事象に触れ、興味関心を持ち、遊びに取り入れながら遊ぶことができるような環境が用意されている	・散歩に行つて見つけた自然物を園に持ち帰り、飾ったり、製作や遊びに取り入れて遊ぶように園庭に机やマジックを用意して子どもと共に作っている ・園庭のどんぐりの色づくりに気づかせ、どんぐり拾いを楽しんだ	B	A		
		友達と一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちに気付けるような関わりをしている	・子どもの行動、思いを認める言葉をかけて子ども一人一人を肯定的に捉えている ・子どもの伝え合いや、新しい発見を友達と共有する援助をしている	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	「遊びのウェブ (構想図) が記入され、0歳児から5歳児までの発達や興味関心に合わせて遊びが用意されている	・年齢や発達段階に合わせた遊びを提供している ・ウェブ図を記入することで、子どもの興味関心、遊びのつながり、経験させたいことを考え組み立てをしている ・10の姿を意識した年齢ごとの遊びを段階的に行っている	B	A	・ウェブ図を初めて見たが、子どもの興味に合わせてかかれている。これだけを書くのは大変だと思うが子ども達一人一人をよく見て先生達がよくやっている	・ねらいを明確にし、準備物や配慮を具体的に記述し見通しをもち実施していく。振り返り後にはウェブ図に加筆をし翌週の計画に活かしていく ・土曜保育は年齢に合った玩具や遊びを用意し、子どもが安心して楽しく過ごせる環境を整えていく。また土曜保育は職員が毎週交代するのでも子どもの配慮事項など情報共有していく ・0~5歳までの発達に合わせた生活リズム、生活習慣の指導に一貫性をもちたていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムに合わせて安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように、子どもの思いに寄り添い、個々への配慮をしている	・早番、遅番保育の子どもが使う玩具や絵本を留意し安心して過ごせるようにしている ・朝の受け入れは体調の聞きやしをしながらゆったりと受け入れ、親子共に安心して一日のスタートができるようにしている	B	A	・これだけの書類を毎週、毎日書くのは本当に大変だと思う。小学校と比べるといいと思う。簡素化すれば子ども達と向き合う時間が増える。省けるところは省けるといい。この園評価書も一緒にしてもいい項目がいくつかあるのが是非簡素化し、職員の仕事を減らすべきだと思う ・職員が一生懸命やってくれていることがわかった。これらのことを保護者に伝えられると職員が報われると思う	・ヘルメットの持ち出し袋や置き場を各クラスごと再確認しどの職員にも共有できるようにする ・危険回避ができるよう身体運動能力を高める遊びを取り入れていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが感じる、気付く、考える、試す、工夫することが出来るような教材や素材が用意されている	・戸外の玩具入れのワゴンを購入し、ワゴンのかごに玩具を種類別に仕分け入れ手に取りやすくしている ・各歳児の発達に合わせたようなものに興味をもっているのか、どのようなものに手を伸ばしてみようと思うのかを考えて教材や素材を用意している	B	A		・指導計画作成時に、準備物を具体的に記述して留意し子どもが興味をもつような配置をしていく。遊んだ後は“とっておく” “遊びっぱなし” の区別をし最後まで子ども遊びの確認をする ・教材や用具の使い方を理解し試してから子どもに提供する
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	計画的に災害、不審者訓練、交通安全指導が行われ、園児に対して安全行動が身につく指導がされている	・水害や地震からの火災の訓練など、様々な想定をしている。職員にも日程の予告をせずに実施し、どのような避難をさせるのか判断したり役割を確認したりして緊急時に備えている。月1回初期消火訓練を実施し消火器の使い方を身に付けている	B	A	・職員が一生懸命やってくれていることがわかった。これらのことを保護者に伝えられると職員が報われると思う ・廊下や玄関に食育の掲示やレシビを置かれていて、親子で見ても楽しんだり学ぶことができる	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが食への関心が持てるように、季節の食材に触れられる取り組みを行っている	・米について米屋の方から話を聞くことで、主食としての米への興味を深めた ・クリスマスや誕生会のおやつ時に自分でスポンジにクリームをつけたりトッピングをして楽しみなが自分のケーキ作りをした	B	A		・調理員が子ども達と一緒に給食を食べながら食べ具合を把握する機会をつくっていく ・発達に合わせた食育のマナー (椅子の座り方、姿勢、挨拶、食べ方) を身に付ける指導をしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個別支援計画が職員間で共有され、一人一人の子どもを理解し保育をしている	・月1回サポートプランの見直しを行っている。月初めの職員会議で前月の様子や支援方法、翌月のねらいについて話す場を設け、園全体でサポート体制をとっている	B	A	・最近ドキュメンテーションの写真が少ないように思う。写真で子どもの様子がわかり楽しみにもなっている ・参加会と参観会の違いは何か 説明を聞いてわかった ・アプローチカリキュラムが細かく計画されている。一年生になるとリセットされるが無理なく入学できるといい ・公開保育に教員の参加は難しい現状ではあるが、努力していきたい。小学校に来ていただくことは、いつでも来ていただける	・積極的に研修に参加し知識を深める。また研修報告を聞きケース討議を行い、支援方法や加配児の状態を共通理解し実施していく ・土曜保育時の対応を共通理解し、担当者が不在でも支援児が居心地良く過ごせる関わりをし環境を整えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園児の出欠席や体調など『登降園時間記入ファイル』に記入し、園児の様子を保育者や保護者に伝えている	・早番での受け入れの際は、担任から保護者に聞くことや伝えることがある時にはファイルに記載したり、早番職員に直接伝えたりして保護者との情報共有をしている ・兄弟、保護者が感染症の場合など園内まで子どもの送迎できない場合は駐車場まで職員が送迎をし、体調の聞きをしをしている	A	A	・参加会と参観会の違いは何か 説明を聞いてわかった ・アプローチカリキュラムが細かく計画されている。一年生になるとリセットされるが無理なく入学できるといい ・公開保育に教員の参加は難しい現状ではあるが、努力していきたい。小学校に来ていただくことは、いつでも来ていただける	・早番遅番時に保護者からの伝達を受けた場合や、子どもの様子の特記事項は担任に伝えたり、朝の打合せで共有したりしている。朝の打合せ内容を確実にクラス内職員に伝達し共有する ・朝の打合せはクラス担任が交代で参加し、確実に他の担任に伝達する
6 研修	(1)研修体制の充実	今日の遊びが明日へ、またその次へとながらる環境となるように、具体的な手立てを共通理解し、実践している	・遊びの後、今日の遊びが明日につながるよう振り返りの時間をもち、翌日「今日はこれで遊ぶ」の思いをもって登園して遊べるようにしている ・乳児会議、幼児会議を月1回行い行事や遊びの内容や方法について検討、決定し、職員会議で報告し全職員で共有している	B	A		・研究保育で学んだことを翌日からの教育保育で改善、継続し環境設定も工夫していく ・行事や遊びの実施後、乳児会議、幼児会議で振り返り改善、継続していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	「やってみたい」「またやりたい」と思えるような身近な自然物や教材、道具類が用意されている	・室内では、とっておきたい物に名札をつけたり場所を確保したりして遊びの続きができるようにしている ・散歩に行つて見つけてきた草花を花瓶に入れて保育室に飾り、散歩の話をしながら次につなげている	B	A		・子どもが戸外のとつき棚に置いたものを担任が把握し、翌日はとつてあった物でまた遊ぶように声をかけた環境設定していく ・自然物、教材や道具類、用具の特性を理解し、まず試して扱い方、遊ばせ方を身につけてから子どもに提供する ・物の整理整頓をする。きれいな状態である物を用意し配置の仕方を考えて設定する
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの遊びや生活の様子を保育参加会、お便り、クラスボード (ドキュメンテーション) で知らせている	・年2回参加会を行い、保護者に園での子どもの様子を見ていただく機会を設けている ・給食のサンプルケースを見せもらうために飾りをしたり、レシビを置いている。また、食育の展示や掲示をしている	B	A		・ドキュメンテーションにねらいや保育者の願いを記載していく ・食育アンケートを献立作成やお便りに活用していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園や小学校との交流を行い、教育保育の情報交換を図り連携を進めている	・小学生の学校招待により、年長児が秋の自然物で作った手作りゲームを楽しませていただいた。また、庵原こども園、吉原保育園の園児と交流した ・中学校のALTと交流し異文化に触れている	A	A		・年長児は就学を控えて、アプローチカリキュラムを実施していく ・小学校の職員に、公開保育参観で子どもの発達や教育保育を覗いていただき連携をとっていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	状況に合わせた地域交流を行い、園だけではできない体験の機会をもつ	・パン作りをしている場面を実際に見せていただき、パンの作り方を知らずじまいに嗅いだりしたこと室内戸外でのパン作り遊びを充実させた ・JAと農家の方の協力でさつま芋掘りを体験した	B	A		・月案作成時に散歩を週1回入れて計画的に実施する ・散歩をしながら、特産物、自然物、景色を見たり地域の方と話をしたり、地域にある店を知ることで店の品物に興味をもち、遊びのきっかけづくりをしていく